

# 子供たちの姿と保育者の願い・援助

2019年度 自閉症児研究部

武蔵野東第一・第二幼稚園

## ねらい

- ・時期ごとの子供たちの姿と、教師の願いや援助、工夫について振り返ることで、学年による子供の姿や援助の方法の違いを共有する。

## 方法

- ①時期ごとの子供たちの姿を捉えた写真を持ち寄る。
- ②写真から読み取れる子供たちの育ち、教師が行なった援助や工夫、援助に込められた願いについて、教師一人一人から説明する。
- ③各学年ごとに考察し、同時期における育ちや援助の違いについて話し合う。

### 子供の姿と教師の援助

	4月	6.7月	9月	10月	12月
年少	 <p>初めて保護者から離れる生活。何をすすむにも初めてのことがばかりで不安な表情の子が多い。 子供たちが好きそうな絵本や玩具を用意したり賑やかに合わせたスキンシップをとったりする。</p>	 <p>保育室や教師の声や存在に慣れ、安定して過ごせる時間が増えてきたことで少しずつ周りの環境に目が向き始めている。 “みんなと一緒”をねらいとし、汽車ポッポで歩く経験を重ね周りの友達を意識できるようにする。</p>	 <p>友達の名前を覚えたり、手をつないで歩いたりすることも増え、友達への興味が増えつつある。 教師が遊びを展開していく中で、友達と同じことをする楽しさを伝えていく。絵本や玩具を共有する経験を重ねていく。</p>	 <p>衣替えを1つのきっかけに衣服の着脱や畳みなど自分でやろうとするが上手くできない姿がある。 「できた!」という達成感を味わってほしい願いから、子に合わせたスナップボタンの色を変えるなど工夫したり手伝ったりする。</p>	 <p>友達のしている遊びや玩具に興味を示すようになり、友達の存在が気になり始めている。 友達と一緒に過ごす楽しさを味わえるようクラスでの活動を増やしたり、友達の存在に気付く声かけをしったりする。</p>
年中	 <p>新しい環境に戸惑いや不安を感じる子もいる。好きな玩具を見ついたり、教師と関わったりすることで笑顔が増えていく。 子供たちが安心してできるよう様々な玩具や絵本の用意、スキンシップをとるなどする。</p>	 <p>幼稚園が安心できる場だと感じ始める。友達と一緒に教師の真似をして体操を楽しんだり幼稚園での生活の仕方を覚えたりしている。 友達と一緒に過ごす心地よさや楽しさを感じられるようクラス全員での活動を保育に取り入れる。</p>	 <p>共有の玩具や遊びを通して子供同士のつながりが見られ始める。教師が間に入ることで、継続した遊びを楽しんでいる。 友達への関心をもったり触れあふ経験をしたりできるように、声を掛けたり場面を作ったりする。</p>	 <p>幼稚園が安心できる場となり、自分の思いが強くなっていく。 親友が自分の気持ちを伸び伸びと表現してほしいという願いをもち自由に遊べる環境を整えたり、気持ちに寄り添いながら折り合いをつけられるように支えたりする。</p>	 <p>これまでの日々の積み重ねで集団への意識がうまれてきた。 クラスで集まる時間を毎日設けた。その中で共通で楽しめる活動を展開し、周りの友達に目が向くようやりとりを積み重ねた。</p>
年長	 <p>新しいクラスになるが、好きな遊びや知っている場所、友達がいることで落ち着いて過ごしている。 落ち着いて話を聞けるよう、椅子に座って活動する時間を増やしたり、話をしているときには、保育者の顔を見られるよう声をかける。</p>	 <p>友達と一緒に同じ体操や活動をする時間を通して、少しずつ周りに意識したり感じたりするようになっていく。 友達を見て模倣をしたり、一緒に行動する時間を増やしたりして友達の存在を意識できるようにする。</p>	 <p>お泊り保育に向けクラスで活動する時間が増えたことで、少しずつ“みんな”の意識がわいてきている。 意識的に思いやりをもち、クラス（友達）を意識して生活を送るようになっている。</p>	 <p>在籍クラスだけでなく、交流先で安心して過ごせるようになっていく。 ドキドキしても友達がいることで落ち着くことも増えてきた。 友達をよりどころにして過ごせるように、援助は最低限にし、子供同士の関わりを見守る。</p>	 <p>友達と一緒にいることを楽しみ、自分から友達に関わりたがる姿が増えてきている。 友達と一緒に過ごす心地よさを感じられるように、必要に応じて声をかけたり、関わりを見守ったりする。</p>

## まとめ

- ・年少では初めて保護者と離れ、集団生活を送る。安心できる場を作りながら、教師や友達を意識できるよう、一緒に活動する時間を積んでいく。少しずつ“人”への興味関心がうまれていき、年中にむけて“人”と一緒にいることの心地よさや楽しさを感じられる姿がみられるようになる。
- ・年中では自分の気持ちを伸び伸びと発揮しながら、教師が間に入り友達同士をつなげていく。そうすることでクラスへの意識が徐々に芽生えてくる。子供の姿に合わせてクラスでの活動を重ねていくことで、年長の4月では落ち着いて友達の中で過ごしたりクラスでの活動に参加できたりするようになる。
- ・年長では運動会やお泊り保育などの行事を通じ、友達を意識しようとする経験を積むことによって、教師の援助が少なくても互いを気に掛けたり、クラスを意識したりする姿がみられるようになる。



◎各学年ごとにその時期の子供の姿に加え、教師の援助に込められた願いについて出し合い、学年をこえて話し合いをしたことで、今の子供たちの育ちが次の学年やその先に繋がっていることが分かった。